

再評価調書

NO. 1

事業名	道路改良事業	事業区間	一般国道 158号 福井市境寺町～計石町			
事業目的						
<p>当路線は、福井市から松本市に至る幹線道路であり、災害時の第一次緊急輸送道路にも指定されている重要な路線である。しかしながら、当区間の福井市境寺町から計石町間は、朝夕の通勤時に渋滞が発生し、円滑な通行に支障をきたしている。</p> <p>当該箇所においてバイパス道路を整備することで、交通容量を拡大し、渋滞の緩和を図るものである。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=5,300m 内 トンネル部 L=1,349m、橋梁部 N=7橋 幅員 W=6.5(9.5)m</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成24年度	平成28年度	平成29年度	平成35年度		
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		9,800,000	433,023	4.4%	9,366,977	
財 源 内 訳	国 庫	4,200,493	186,075		4,014,418	
	県 他	5,599,507	246,948		5,352,559	
費用対効果		2.41(総便益220.2億円 総費用91.2億円)				
事業の進捗状況	H28までの状況	これまでに、現地測量や調査、道路および橋梁の設計を進めている。				
	H29以降残事業	引続き、設計等を進め、用地買収および物件補償を行い、工事に着手、平成35年度の完成を目指す。				
前回との比較	当初計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	98.0億円	98.0億円	変更なし			
完成予定年度	平成35年度	平成35年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
<p>国道158号の交通量が、1日あたり約14,000台で交通容量を超えており、朝夕の通勤時の渋滞が緩和できない。</p>						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 2

事業名	道路改良事業	事業区間	一般国道 162号 小浜市一番町～雲浜1丁目			
事業目的						
<p>当路線は、小浜市街地を縦貫する幹線道路であるとともに、若狭湾沿岸部への広域観光ルートとして重要な路線である。しかしながら、当区間の大手橋・西津橋は設置から80年近くが経過し老朽化が著しい他、幅員が6.0mと狭く、小・中・高校の通学路としての安全対策も求められている。</p> <p>このため、老朽橋の架け替えに合わせ道路改良を行い、安全で円滑な交通を確保するとともに、地域の産業の活性化、観光の振興を図る。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=700m 内、橋梁3橋 L=118.6m(大手橋)、50.0m(城内橋)、135.5m(西津橋) 幅 員 一般部 W=6.0(16.0)m 2車線、橋梁部 W=6.0(13.0)m 2車線</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成24年度	平成27年度	平成29年度	平成35年度		
事業費 (千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		7,250,000	571,010	7.9%	6,678,990	
財 源 内 訳	国 庫	3,452,600	272,100	/	3,180,500	
	県 他	3,797,400	298,910		3,498,490	
費用対効果		2.00 総便益(127.2億円 総費用63.7億円)				
事業の進捗状況		H28までの状況	これまでに、現地測量や調査、設計、用地買収、物件補償を進めている。			
		H29以降残事業	今後引続き、用地買収および物件補償を行い、工事に着手、平成35年度の完成を目指す。			
前回との比較	当初計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	72.5億円	72.5億円	変更なし			
完成予定年度	平成35年度	平成35年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
<p>・架設から80年近く経過し老朽化が著しく進行しており、今後、通行止めが生じた場合、両橋梁に挟まれている城内地区へのアクセス道路が市道1路線のみとなり、通常時の通行のほか、緊急時における避難に著しい支障をきたす恐れがある。</p>						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 3

事業名	砂防事業	事業区間	永平寺川支川(えいへいじがわしせん) 永平寺町市野々			
事業目的						
<p>永平寺川支川は、福井県永平寺町の中部に位置し、人家14戸、志比南幼稚園および避難場所に指定されている志比南公民館を保全対象に含む土石流危険溪流である。</p> <p>現在、溪流の侵食・荒廃が激しく、溪床には多量の不安定土砂が堆積していることから、今後の豪雨時には土石流が発生する恐れがあるため、砂防堰堤を整備し下流域の住民の生命と財産を保全する必要がある。</p>						
全体事業内容						
堰堤工 2基 溪流保全工 750m 調査測量設計委託 1式 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成32年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		777,000	389,070	50.1%	387,930	
財 源 内 訳	国 庫	370,000	186,575	/	183,425	1/2
	県 他	407,000	202,495		204,505	
費用対効果		1.42(総便益10.45億円 総費用7.36億円)				
事業の進捗状況	H28までの状況	切谷川の本堤が完成し、人家10戸を保全。 押谷川の用地補償が完了し、工事用道路・本堤に着手。				
	H29以降残事業	切谷川の溪流保全工(H29～H31)、押谷川の本堤(H28～H30)ならびに溪流保全工(H30～H32)を完成させ、人家4戸、志比南幼稚園、ならびに志比南公民館を保全する。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	5.3億円	7.8億円	<ul style="list-style-type: none"> ・地質調査の結果、当初の想定よりも基礎地盤が軟弱であることが判明し、堤体の安定性を確保するために構造を見直した結果、コンクリート量が増大(94百万円) ・残土流用先の変更が必要となり、運搬費が増大(40百万円) ・労務費高騰・消費税増額等(89百万円) など 			
完成予定年度	平成29年度	平成32年度	事業用地の地図訂正に不測の日数(約2年)を要したことに加え、工事着手後に堰堤構造を変更する必要が生じ、その修正設計に不測の日数(約1年)を要したため、事業期間の3年延長が必要となった。			
事業を休止した場合の影響						
本溪流は荒廃が進んでおり、不安定土砂が多く堆積しているため、今後の集中豪雨により土石流が発生し、下流域に多大な被害を与える恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 4

事業名	砂防事業	事業区間	田ノ谷川(たのたにがわ) 福井市田ノ谷町			
事業目的						
<p>田ノ谷川は、福井県福井市の西部に位置し、人家26戸を保全対象に含む土石流危険溪流である。 平成16年7月の豪雨時には土砂が流出し、下流の人家への被害が発生した。現在も、溪流の侵食・荒廃が激しく、溪床には多量の不安定土砂が堆積していることから、今後の豪雨時には土石流が発生する恐れがあるため、砂防堰堤を整備し下流域の住民の生命と財産を保全する必要がある。</p>						
全体事業内容						
堰堤工 2基 調査測量設計委託 1式 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成24年度	平成25年度	平成27年度	平成31年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		456,000	219,460	48.1%	236,540	
財 源 内 訳	国 庫	215,000	101,000	/	114,000	1/2
	県 他	241,000	118,460		122,540	
費用対効果		3.77(総便益16.16億円 総費用4.29億円)				
事業の進捗状況	H28までの状況	1号堰堤の用地補償が完了し、工事用道路に着手。				
	H29以降残事業	1号堰堤(H27～H30)ならびに2号堰堤(H29～H31)を完成させ、人家26戸を保全する。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	3.5億円	4.6億円	・地質調査の結果、当初の想定よりも基礎地盤が軟弱であることが判明し、堤体の安定性を確保するために構造を見直した結果、コンクリート量が増大(39百万円) ・労務費高騰・消費税増額等(52百万円) など			
完成予定年度	平成29年度	平成31年度	事業用地の地図訂正に不測の日数(約2年)を要したため、事業期間の2年延長が必要となった。			
事業を休止した場合の影響						
本溪流は荒廃が進んでおり、不安定土砂が多く堆積しているため、今後の集中豪雨により土石流が発生し、下流域に多大な被害を与える恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 5

事業名	急傾斜地崩壊対策事業	事業区間	下天下地区(しもてがちく) 福井市下天下町			
事業目的						
<p>下天下地区は、福井県福井市の南西部に位置し、人家17戸、下天下公民館および市道を保全対象に含む最大がけ高46m最大勾配58°の急傾斜地である。</p> <p>平成24年9月には斜面崩壊により人家への被害が発生するなど、斜面の風化が進んでおり、今後の豪雨時にはがけ崩れが発生する恐れがあるため、急傾斜地崩壊対策工事を実施し住民の生命と財産を保全する必要がある。</p>						
全体事業内容						
重力式擁壁工 300m 排土工 110m 調査測量設計委託 1式 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成24年度	平成25年度	平成25年度	平成31年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		357,000	148,350	41.6%	208,650	
財 源 内 訳	国 庫	153,000	64,350	/	88,650	
	県 他	204,000	84,000		120,000	
費用対効果		2.96(総便益10.08億円 総費用3.41億円)				
事業の進捗状況		H28までの状況	重力式擁壁工163.2mならびに排土工50mが完成し、人家3戸を保全。			
		H29以降残事業	重力式擁壁工136.8m(H29～H31)ならびに排土工60m(H29)を完成させ、人家14戸ならびに下天下公民館を保全する。			
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	2.5億円	3.6億円	<ul style="list-style-type: none"> ・地質調査の結果、当初の想定よりも基礎地盤が軟弱であることが判明し、擁壁の安定性を確保するために構造を見直した結果、コンクリート量が増大したことに加え、地盤改良工事も必要となった(56百万円) ・労務費高騰・消費税増額等(39百万円) など 			
完成予定年度	平成28年度	平成31年度	事業用地の地図訂正ならびに相続手続きに不測の日数(約3年)を要したため、事業期間の3年延長が必要となった。			
事業を休止した場合の影響						
今後の集中豪雨により斜面崩壊が発生し、急傾斜地に面している人家等に多大な被害を与える恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 6

事業名	急傾斜地崩壊対策事業	事業区間	花堂地区(はなんどうちく) 福井市花堂北2丁目			
事業目的						
<p>花堂地区は、福井県福井市の中央部に位置し、人家35戸、くすのき児童館および市道を保全対象に含む最大がけ高55m最大勾配65°の急傾斜地である。</p> <p>平成22年1月には斜面崩壊が発生するなど、斜面の風化が進んでおり、今後の豪雨時にはがけ崩れが発生する恐れがあるため、急傾斜地崩壊対策工事を実施し住民の生命と財産を保全する必要がある。</p>						
全体事業内容						
擁壁補強工 253.2m 重力式擁壁工 55.1m もたれ式擁壁工 41.8m 調査測量設計委託 1式 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成24年度	平成25年度	平成25年度	平成31年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		436,800	183,200	41.9%	253,600	
財 源 内 訳	国 庫	197,600	81,225	/	116,375	
	県 他	239,200	101,975		137,225	
費用対効果		4.38(総便益18.03億円 総費用4.12億円)				
事業の進捗状況	H28までの状況	重力式擁壁工55.1mならびにもたれ式擁壁工20mが完成し、人家5戸を保全。				
	H29以降残事業	擁壁補強工253.2m(H29～H31)ならびにもたれ式擁壁工21.8m(H29)を完成させ、人家30戸ならびにくすのき児童館を保全する。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	4.4億円	4.4億円	変更なし			
完成予定年度	平成28年度	平成31年度	事業用地の地図訂正ならびに相続手続きに不測の日数(約3年)を要したため、事業期間の3年延長が必要となった。			
事業を休止した場合の影響						
今後の集中豪雨により斜面崩壊が発生し、急傾斜地に面している人家等に多大な被害を与える恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 7

事業名	急傾斜地崩壊対策事業	事業区間	西新地区(にしんちく) 福井市西新町			
事業目的						
<p>西新地区は、福井県福井市の南部に位置し、人家11戸および市道を保全対象に含む最大がけ高25m最大勾配40°の急傾斜地である。</p> <p>平成16年7月の福井豪雨時には落石や地盤の緩みが発生するなど、斜面の風化が進んでおり、今後の豪雨時にはがけ崩れが発生する恐れがあるため、急傾斜地崩壊対策工事を実施し住民の生命と財産を保全する必要がある。</p>						
全体事業内容						
擁壁工 309.7m 法面工 1,311m ² 調査測量設計委託 1式 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成24年度	平成25年度	平成27年度	平成31年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		252,000	137,250	54.5%	114,750	
財 源 内 訳	国 庫	108,000	58,950	/	49,050	
	県 他	144,000	78,300		65,700	
費用対効果		2.48(総便益5.88億円 総費用2.37億円)				
事業の進捗状況	H28までの状況	擁壁工20mならびに法面工907m ² が完成し、人家2戸を保全。				
	H29以降残事業	擁壁工289.7m(H29～H31)ならびに法面工404m ² (H31)を完成させ、人家9戸を保全する。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	2.5億円	2.5億円	変更なし			
完成予定年度	平成29年度	平成31年度	事業用地の地図訂正に不測の日数(約2年)を要したため、事業期間の2年延長が必要となった。			
事業を休止した場合の影響						
今後の集中豪雨により斜面崩壊が発生し、急傾斜地に面している人家等に多大な被害を与える恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 8

事業名	広域河川改修事業	事業区間	一級河川 天王川 越前町市～宝泉寺			
事業目的						
天王川は一級河川九頭竜川の支流日野川に合流する河川で、越前町市街地を流れる河川である。現況断面の流下能力(治水安全度1/3以下)が低いため、暫定で治水安全度を1/5(流出量390m ³ /s)確保し、最終形で1/20(流出量550m ³ /s)確保を目指し整備を行い、水害から住民の命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=2,000m 築堤工 L=2,000m 掘削工 L=240千m ³ 橋梁 N=4橋 樋門 N=4基 堰 N=2箇所 用地及び補償費 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成34年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		3,850,000	2,406,352	62.5%	1,443,648	
財 源 内 訳	国 庫	1,925,000	1,202,747	/	722,253	1/2
	県 他	1,925,000	1,203,605		721,395	
費用対効果		11.2(総便益545.3億円 総費用48.7億円)				
事業の進捗状況	H28までの状況	市姫橋の架替えを完了し、上流の狭窄部約490mを概ね5年確率規模で暫定改修済平成23年度からは市姫橋から天神橋区間の改修に着手、左岸を先行して整備を進め、引き続き右岸の改修を実施している。				
	H29以降残事業	平成29年度以降も用地買収手続き、護岸・築堤工事、上流3橋の架替え等の整備を行い、平成34年度の完成を目指す。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	38.5億円	38.5億円	変更なし			
完成予定年度	平成29年度	平成34年度	町道整備と一体的に改修を行う区間において、町道計画に同意しない地権者との交渉(約5年)に不測の日数を要したため、事業期間の5年延長が必要となった。			
事業を休止した場合の影響						
事業区間は越前町中心市街地にあり、事業を休止した場合、住宅・学校・病院・福祉施設・行政機関・幹線道路に対し、洪水に伴う大きな被害が想定される。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 9

事業名	ダム建設事業	事業区間	河内川ダム 若狭町熊川			
事業目的						
<p>洪水調節：ダム地点の計画高水流量250m³/sのうち180m³/sの洪水調節を行い水害から住民の生命と財産を守る。</p> <p>既得取水の安定化・良好な河川環境の創出等：既得取水の安定化および良好な河川環境の創出等のための流量を確保する。</p> <p>水道用水：小浜市、若狭町の水道用水として新たに15,552m³/日(0.18m³/s)の取水を確保する。</p> <p>工業用水：若狭中核工業団地に対し工業用水として新たに1,728m³/日(0.02m³/s)の取水を確保する。</p> <p>かんがい用水：鳥羽川流域地区218.6haの農地に対し、かんがい用水として新たに最大0.36m³/sの取水を確保する。</p>						
全体事業内容						
<p>重力式コンクリートダム(ダム高 H=77.5m 堤頂長 L=202.3m 堤体積 V=25.8万m³)</p> <p style="text-align: center;">総貯水容量 V=800万m³ 有効貯水容量 V=720万m³ 湛水面積 A=0.37km²)</p> <p>付替県道 L=4,433m 付替町道 L=6,496m 水没戸数 N=35戸</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和58年度	平成5年度	平成5年度	平成31年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		41,500,000	30,020,097	72.3%	11,479,903	
財 源 内 訳	国 庫	20,462,615	14,802,112	/	5,660,503	治水89.65% 内)国庫55%
	県	16,752,572	12,116,908	/	4,635,664	治水89.65% 内)県45%
	その他	4,284,813	3,101,077	/	1,183,736	他費10.35%
費用対効果		1.14(総費用548.4億円 総便益623.2億円)				
事業の進捗状況	H28までの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成9年度までに用地補償は完了 ・平成28年3月に、付替県道L=4,433mの整備が完了 ・平成28年度末までに、堤体工コンクリート20.1万m³打設予定 				
	H29以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年5月末の事業完了を目指す <p>ダム本体(H=77.5m L=202.3m V=25.8万m³) 付替町道 935m</p>				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	415億円	415億円	変更なし			
完成予定年度	平成31年度	平成31年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
<p>本事業は洪水調節や既得取水ほか新規利水(上水、工業用水、農業用水)の安定化、良好な河川環境の保全等を目的としている。事業を休止した場合、住宅・学校・病院・福祉施設・幹線道路等に被害が及び、住民生活に大きな影響を与えるなど、住民の生命と財産を洪水から守ることができない。渇水時には農作物や魚類等の生息などに影響を与え、大きな被害が発生する恐れがある。</p>						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 10

事業名	敦賀港海岸 海岸侵食対策事業	事業区間	敦賀港海岸 松原地区 敦賀市松島			
事業目的						
<p>敦賀港海岸松原地区は、国の名勝「気比の松原」を有し、県外から多くの観光客が訪れる県内でも有数の海水浴場であるが、松林を背後にもつ松原工区では近年の海岸侵食によって汀線の後退や、松林の被害が発生している。また住宅地を背後にもつ松島工区では、冬季風浪時に住宅等への越波被害が発生しているため、侵食対策を実施し被害の防止を図る。</p>						
全体事業内容						
離岸堤 L=240m(2基) 護 岸 L=345m 突 堤 L=119m(1基) 養 浜 V=43千㎡						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成6年度	—	平成7年度	平成34年度		
事業費 (千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		2,851,000	2,347,638	82.3%	503,362	
財 源 内 訳	国 庫	1,425,500	1,173,819	/	251,681	1/2
	県 他	1,425,500	1,173,819		251,681	
費用対効果		2.89 (総便益150.9億円 総費用52.2億円)				
事業の進捗状況	H28までの状況	離岸堤、護岸、突堤の整備が完成し、養浜についても43千㎡のうち約18千㎡が完成した。				
	H29以降残事業	引き続き、養浜を進め、汀線を保全する。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	28.5億円	28.5億円	変更なし			
完成予定年度	平成31年度	平成34年度	鞠山防波堤延伸工事(国事業)による松原海岸の養浜への影響を確認するための期間(約3年)を設けたため、事業期間の3年延長が必要となった。			
事業を休止した場合の影響						
海岸侵食が進行し松林の被害がさらに拡大する可能性がある。また砂浜幅の減少により海水浴場としての機能が低下し観光客が減少する恐れがある。						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 11

事業名	道路改良事業	事業区間	一般国道 476号 今立郡池田町持越			
事業目的						
<p>当路線は、大野市を起点とし、池田町を通過し、敦賀市に至る幹線道路であり、第一次緊急輸送路に指定されている重要な路線である。しかしながら、当区間は人家連坦の屈曲した狭隘区間であり、急峻な山地と足羽川に挟まれ、平成16年福井豪雨時の路肩崩壊や平成23年2月の土砂崩れなど、度々災害により通行止めが発生している。</p> <p>近隣には迂回路となる道路がなく、事故や災害が発生すると地域が受ける影響が大きいことから、バイパスを整備することにより安全で円滑な交通の確保を図る。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=994m 内 トンネル部 293m(1箇所)、橋梁部 55m(1橋) 幅員 W=6.0(9.0)m</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成30年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		2,100,000	1,262,636	60.1%	837,364	
財 源 内 訳	国 庫	1,284,001	765,301	/	518,700	
	県 他	815,999	497,335		318,664	
費用対効果		1.02(総便益23.1億円 総費用22.6億円)				
事業の進捗状況	H28までの状況	これまでに、現地測量や調査、設計、用地買収を進め、平成27年度に橋梁下部工事に、平成28年度にトンネル掘削工事に着手している。				
	H29以降残事業	今後引き続き、橋梁工事、トンネル工事を進め、平成30年度の完成を目指す。				
前回との比較	当初計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	15億円	21億円	<ul style="list-style-type: none"> ・トンネル地盤が想定以上に悪く、トンネル掘削における対策工事等(約3.3億円)が必要となった ・労務費高騰・消費税増額等(約2.7億円) 			
完成予定年度	平成30年度	平成30年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
<ul style="list-style-type: none"> ・現況道路幅員が狭く、線形不良であり、交通の安全性が確保できない。 ・過去に路肩崩壊や土砂崩れにより通行止めが発生している中、近隣に迂回路はなく、今後、災害による通行止めが生じた場合、地域へ与える影響が大きい。 						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 12

事業名	道路改良事業	事業区間	主要地方道 清水美山線 福井市大土呂町～半田町			
事業目的						
<p>当路線は、旧清水町から福井市南部の市街地を経て旧美山町に至る主要幹線道路である。しかしながら、JR北陸本線の踏切部(半田踏切)を含めた前後区間は、幅員狭小・線形不良のため、円滑な交通のネックとなっている。</p> <p>当該箇所の整備により、踏切部を立体交差化し、併せて前後区間の改良を行うことにより、歩行者および車両の安全で円滑な交通の確保を図る。</p>						
全体事業内容						
全体延長 1,300m 幅 員 10.25m(車道幅員6.5m) 踏切立体交差 1箇所						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成19年度	平成19年度	平成21年度	平成34年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		5,700,000	1,385,965	24.3%	4,314,035	
財 源 内 訳	国 庫	3,149,207	709,930	/	2,439,277	
	県 他	2,550,793	676,035		1,874,758	
費用対効果		1.12 (総便益61.2億円 総費用54.8億円)				
事業の進捗状況	H28までの状況	これまでに、現地測量や調査、設計、用地買収、工事を進め、平成26年に、半田町側の約0.5kmの区間を供用した。また、立体交差部については、平成28年度から工事に着手している。				
	H29以降残事業	今後引続き、用地買収や立体交差部等の道路工事を進め、平成34年度の完成を目指す。				
前回との比較	当初計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	33億円	57億円	<ul style="list-style-type: none"> ・立体交差部において、一部の作業が夜間線路閉鎖時に作業が必要となったことに伴い、日施工量の制限により人件費、機械損料等が増額(約8.4億円) ・地質調査の結果、想定地質と異なったことに伴い、薬液注入費、地盤改良費等が増額(約9.9億円) ・労務費高騰・消費税増額等(約5.7億円) 			
完成予定年度	平成31年度	平成34年度	<ul style="list-style-type: none"> ・立体交差部の用地交渉難航により用地取得が遅延(約1年) ・夜間線路閉鎖作業に伴う日施工量の制限、薬液注入等範囲の増加により、立体交差部工事の工期延長(約2年) 			
事業を休止した場合の影響						
<ul style="list-style-type: none"> ・福井市南部における東西の道路ネットワークが形成されず、地域の交流促進が妨げられる。 ・交通のネックとなっている半田踏切を除却できない。 ・通学路に歩道が設置できず、歩行者の安全性が確保できない。 						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 13

事業名	雪寒地域道路事業 (消雪施設)	事業区間	主要地方道 小浜上中線 小浜市 後瀬町			
事業目的						
<p>主要地方道小浜上中線は一般国道27号と平行し、小浜市の中心市街地と三方上中郡若狭町を結ぶ主要幹線道路である。当該箇所は公立小浜病院(救急医療施設)、小浜市役所など多数の公共施設が立地しており、最重点除雪路線として指定している。周辺の県道は消雪施設が整備してあるが、当該区間のみ消雪施設の整備が未整備であるため、圧雪などで交通機能が低下することがある。そのため、消雪施設を整備し、降雪時における緊急医療施設等への安全で円滑な交通の確保する。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=750m 消雪工詳細設計 1式、さく井工 1箇所、取水設備 1式、散水管L=750m</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成26年度	—	平成26年度	平成31年度		
事業費 (千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		70,000	4,200	6.0%	65,800	
財 源 内 訳	国 庫	43,560	2,640	/	40,920	66/100
	県 他	26,440	1,560		24,880	
費用対効果		—				
事業の進捗状況	H28までの状況	H26年度に消雪工詳細設計1式が完成。				
	H29以降残事業	さく井工1箇所、取水設備1式、散水管L=750m。 平成30年度～平成31年度にかけて施工し完了予定。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	0.7億円	0.7億円	変更なし			
完成予定年度	平成28年度	平成31年度	平成27年度から消雪施設の井戸を掘る予定であったが、小浜市が地下水の保全策の検討等を行うことになり、消雪施設の整備を見合わせたため、事業期間の3年延長が必要となった。			
事業を休止した場合の影響						
<p>周辺の県道には消雪施設が整備してあり、当該区間のみ消雪施設が未整備であるため、圧雪などで交通機能が低下することがある。</p>						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 14

事業名	交通安全施設等整備事業	事業区間	一般県道 西尾鯖江停車場線 鯖江市 宮前1丁目～日の出町			
事業目的						
<p>一般県道 西尾鯖江停車場線は、越前市から鯖江市JR鯖江駅に至る幹線道路である。 当路線は、JR鯖江駅の他、学校等が立地しているため、自動車、自転車・歩行者交通量とも多い。特に近くにある惜陰小学校や鯖江高校の通学路として利用されているが、JR北陸本線・五郎丸踏切内には歩道がなく、また踏切内の段差や勾配も著しいため、非常に危険な状況となっていることから、平成24年度には学校関係者、警察、道路管理者共同で点検を行い、対策が必要な箇所として通学路交通安全プログラムにも位置づけられた。このことから、踏切内の歩道新設および踏切前後の歩行者空間の確保を行うことで、安全安心な歩行空間の創出および通学路の安全確保を図る。</p>						
全体事業内容						
全体延長 L=110m 踏切拡幅(JR委託) 1式、歩道工 1式、測量・詳細設計 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成26年度	平成28年度	平成28年度	平成30年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		295,000	65,100	22.1%	229,900	
財 源 内 訳	国 庫	182,000	40,300	/	141,700	65/100
	県 他	113,000	24,800		88,200	
費用対効果		—				
事業の進捗状況	H28までの状況	詳細設計、用地補償、踏切東側歩道工事 完了。				
	H29以降残事業	踏切工事、踏切西側歩道工事。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	2.5億円	3.0億円	・踏切の詳細設計において、当初想定していなかった範囲の電車線設備および信号・通信設備の増工が必要となった(42百万円)			
完成予定年度	平成28年度	平成30年度	JRとの踏切協議において、県内で実施されている他の踏切工事の影響により、当該踏切工事の着手時期が遅れることとなったため、事業期間の2年延長が必要となった。			
事業を休止した場合の影響						
<p>自動車、自転車・歩行者交通量とも多く、特に近くにある惜陰小学校や鯖江高校の通学路として利用されているがJR北陸本線・五郎丸踏切内には歩道がないため、自転車・歩行者の安全が確保できない。</p>						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 15

事業名	港整備交付金事業	事業区間	内浦港(音海地区) 高浜町 音海地係			
事業目的						
<p>地方港湾である内浦港及び第1種漁港である上瀬漁港(日引地区)を一体として整備することにより、内浦港における取扱貨物量の増加を図り、また、釣体験や漁業体験、水産物の味覚体験の楽しみが一体となった親しみのある海づくりを展開することで、内浦湾全体の活性化を図る。</p>						
全体事業内容						
岸壁 L=30.0m 取付護岸 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成17年度	—	平成17年度	平成28年度		
事業費 (千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		1,978,400	1,889,400	95.5%	89,000	
財 源 内 訳	国 庫	832,572	795,245	/	37,327	1/3,4/10,1/2
	県 他	1,145,828	1,094,155		51,673	
費用対効果		整備中止のため算出しない				
事業の進捗状況	H28までの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・岸壁部は平成21年度に完了し、現在供用中 ・物揚場部はブロックを平成21年度までに製作し、その後、事業を休止中 				
	H29以降残事業	なし				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	19.8億円	19.8億円	平成21年度で事業を休止しているが、当該事業は、漁船や観光船のための物揚場の利用見込みが低いことから、中止とする。 製作済のブロック等については、有効な活用策を検討する。			
完成予定年度	平成21年度	平成28年度				
事業を休止した場合の影響						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 16

事業名	港湾機能施設整備事業		事業区間	内浦港(音海地区) 高浜町 音海地係		
事業目的						
<p>内浦港は、若狭地域の最西端にある内浦湾奥部に位置し、三方を山に囲まれた天然の良港である。昭和44年の開港以降、主に原木の輸入を主体とする国際貿易港として、地域経済の発展に重要な役割を果たしてきた。</p> <p>しかし、近年、内浦港では野積場の不足、効率的な荷捌きやストックが困難となり、他港へ貨物が流出する事態となっている。このため、ふ頭用地の整備を行うことにより、課題である施設能力不足の解消を図る。</p>						
全体事業内容						
舗装 7,000m ² 、保安設備 1式、測量調査設計 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成20年度	—	平成20年度	平成31年度		
事業費 (千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		200,000	25,414	12.7%	174,586	
財 源 内 訳	国 庫	0	0	/	0	
	県 他	200,000	25,414	/	174,586	
費用対効果		—				
事業の進捗状況	H28までの状況	調査測量設計が完了				
	H29以降残事業	舗装工 7,000m ² 、保安設備 1式				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	0.3億円	2.0億円	平成21年度で事業を休止しているが、近年、貨物の種類が多様化し、貨物量も増加していることから、ふ頭用地整備を再開する。			
完成予定年度	平成21年度	平成31年度				
事業を休止した場合の影響						
備 考						